



2020年4月17日発行

休業措置延長について

新学期が始まりましたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、臨時休業を引き続き継続することになりました。様々な不安の中にいるとは思いますが、皆さんには「その先」があります。

コロナの影響が心配だ、景気後退が予想される、学校見学もできていない……
それでも未来はやってきます。就職試験も大学入試も当然あるでしょう。こんな今だからこそ自分自身の将来を真剣に考えてみましょう。

今年の学年通信のテーマは「ソノサキ」です。3年生はこれから進路活動を含めて、自分の将来に関わる様々なイベントがありますが、それがゴールではなく、その先にあるものを見据えて突き進んでほしいという思いからこのテーマにしました。

幾多の困難を乗り越え『ソノサキ』にある輝く未来を信じて。

令和2年度進路活動への展望

～進路指導部長の菅野忠信先生より～

4月から新年度が始動しましたが、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により、日本国内はもとより福島県内でも、あらゆる面において非常に大きな影響を受けています。

特に、感染拡大を防止するために人の動きやサービス・販売活動が大きく制限されたことで、これまで順調だった経済活動に急ブレーキがかかった状態が続いています。新型コロナウイルス感染症の猛威は止まらず、終息時期がいつになるかが分からず先行きが不透明なため、この状態は長期化する可能性があるとも言われています。これが長期化すればするほど、経済回復にも時間がかかることが予想されます。

このような状況下において、3年生の皆さんはこれからの自身の進路決定に向けて様々な

不安を抱えていることだと推察します。

このような点を踏まえて、就職と進学における対策の指針について、以下、2つの項目に分けて述べてみたいと思います。

◎就職について

前述したように、新型コロナウイルス感染症の影響から、これまで好況を維持してきた経済状況が一転し、下げ止まりの見えない景気後退に針路を変えています。特に、人の動きが止まった現状から、サービス・販売、接客業、運輸業への影響は大きく、会社経営が厳しくなり社員の解雇や雇い止めが行われていることは看過できません。

3年生の就職に向けての今年度の求人票は、7月1日から各学校に公開されますが、容易に推察できることは、昨年度よりも求人件数が減ると同時に求人票ごとの求人数も減少するだろうということです。しかし、介護や医療分野などにおいては慢性的な人員不足から、これまでと同様の求人数を維持するのではないかと思います。つまり、職種によって求人数の明暗が分かれてくると考えられます。2008年（平成10年）に起きたリーマン・ショックの不況下では県内の求人件数が激減し、生徒が内定獲得を目標としてきた事業所からの求人がなく、当時、出されていた求人票の中から自分が行きたいと思う事業所を選んで採用試験に臨むということが多くありました。中には、景気の回復を期待して専門学校に進学をした生徒もいましたが、景気回復が長期化したため、求人状況が好転することがなく厳しい就職戦線に臨まざるを得ないというケースもありました。さらには内定を取ることを優先するが故に起こるミスマッチにより、離職率が高くなったという反省点があったのも事実です。

今年度は、これまでのような「売り手市場」ではなく、厳しい就職戦線を強いられる「試練の就活」になると思われますので、「やる気・伸びる気・成し遂げる気」を持って粘り強く取り組むことが重要になります。

◎進学について

進学においても、新型コロナウイルス感染症の影響から、オープンキャンパスや進路ガイダンスなどの日程が変更・縮小され、受験生が学校選びをするための貴重な機会が少なくなるのではないかと思います。そのようなケースの対応策として、大学・短大・専門学校ではそれぞれのホームページに学校紹介の動画を編集して「YouTube」などで公開している場合がありますので、閲覧してみるのも良いと思います。

既にご存知の方もいると思いますが、今年の3年生から大学・短大の入試の形式が変わります。具体的な内容として、「進路説明会」の資料の中から該当する部分を抜粋して、以下に掲載しますので内容を確認してください。

(A) 大学・短大……令和2年度から推薦・A0入試が変わります！

令和3年度入試、つまり令和2年4月に高校3年生になった学年から大学入試制度が変わります。特に、推薦入試では「総合型選抜（旧A0入試）」と「学校推薦型選抜（旧推薦入試）」の選抜方法に変更されます。これまでの「公募推薦」と「指定校推薦」は「学校推薦型選抜」に分類されます。

そして大前提として、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」いずれも、大学が入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を明確に提示し、それに基づいた選考を行いま

す。

【主な変更点】

◎「多面的評価」の実施

「総合型選抜」「学校推薦型選抜」いずれも、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、各教科・科目にかかるテスト、資格・検定試験の成績など、様々な方法で多面的に受験生を評価します。

◎名称 ・A0入試⇒総合型選抜 ・推薦入試⇒学校推薦型選抜

◎実施時期/募集定員

| | 総合型選抜 (旧A0入試) | 学校推薦型選抜 (旧推薦入試) |
|------|------------------|---------------------|
| 出願 | 9月以降 | 11月 |
| 合格発表 | 11月以降、3月末まで | 12月以降、一般選抜期日の10日前まで |
| 募集定員 | 制限なし | 学部等の募集定員5割未満 |

◎選抜方法

1. 一般選抜（一般入試）

学力筆記試験だけで合否判断がなされます。

2. 学校推薦型選抜（旧推薦入学試験）

出身学校長の推薦を受けた生徒を対象とし、調査書・面接・小論文等、また、場合によっては基礎学力テストが課され、これらが合否判断材料となります。

3. 総合型選抜（旧A0入学試験〈自己推薦試験〉）

原則的には現役の高校生を対象とし、自己の特長を小論文やプレゼンテーションなどでアピールし、その内容により合否判断が行われます。

①「調査書」の提出

「調査書」とは、受験者本人の高校生活での学業成績や学習態度などについて教員が記述する文書のこと、内申書とも呼ばれています。大学側は、入学後の学びを積極的に行えるポテンシャルのある学生を求めています。それを見分けるための資料が「調査書」です。大学の入学者選抜の参考資料として使われ、これまでのA0入試・推薦入試でも提出が義務付けられていました。

令和2年度からは、この「調査書」の記載内容が見直され、これまでのような評定平均値だけではなく、特長や特技、部活動やボランティア活動、留学・海外経験、取得資格・検定、表彰の記録などの様々な取り組みを、より詳細に記入する形になります。高校生活において、課外活動も重要な大学入試対策になるということです。大学で学びたいことを探りながら、興味のある事柄には積極的に取り組んでいきましょう。活動の積み重ねが、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」での自己アピールにもつながりますし、何よりもかけがえのない経験として、その後の人生を有意義にしてくれることと考えます。

また、学業成績についても良し悪しのみならず、志望学部の基礎科目を履修しているか、好成績を維持していたか、成績を徐々に上げた努力が見られるかなど、履修状況や成績の推移まで選抜基準に組み入れる大学が増える見込みです。

②その他の提出資料

- ・総合型選抜（旧A0入試）：受験生本人が執筆した「活動報告書」「大学志望理由書」「学修計画書」などを活用。
- ・学校推薦型選抜（旧推薦入試）：受験生本人の長所に加えて、学力の3要素に基づく評価が記載された「推薦書」が必須。

(B) 受験先について

1. 専門学校・その他

書類選考が多く、推薦されれば合格はしやすいのが実情です。ただし、公立の学校や医療関係の学校は、学科試験や小論文を課すところが多く、倍率も高くなります。

また、専門学校の中には、「専修学校制度」によって定められた設置基準を満たし、認可を受けた学校以外に、無認可で資格が何も取得できない学校もありますので、十分留意してください。

いずれにせよ、目的意識もなく、なんとなく進学すると途中で挫折することになりますので、以下のことを肝に銘じてほしいと思います。

- ① 自己の適性・能力をよく考えて決定すること。
- ② 卒業後の就職など自分の将来をよく考えて決定すること。
- ③ 取得できる資格についてよく調べておくこと。
- ④ 推薦入学の場合、書類審査だけというのが多いが、コースによっては専門・一般の基本的知識を見る筆記試験が課せられることもあるので、常々基礎学力を身に付けるよう努力すること。
- ⑤ 無認可校は選択しないこと。

【無認可校に進学した場合のデメリット】

- (1) 専門学校を卒業しても「専門士」の称号が付かない。（高卒扱い）
⇒高卒求人での採用となる場合が多い。
- (2) 学割が利用できない。
- (3) 奨学金や教育ローン制度の利用が困難。